

# 学校教師と生徒間における教育現場での

## LINE、Twitter の活用方法

言語文化比較ゼミナール 1414068 吉田 倫人

### 1. 研究動機・研究目的

本研究では、不祥事の原因の一つとされている SNS を教育現場で教師が LINE、Twitter を活用すること。そして、教育をより充実させること、生徒とのよりよい関係を築き、多くの教育問題への対策の手段としても活用できるかを検討することである。日本の教育現場がよりよくなるために LINE、Twitter をはじめとする SNS 役立てただけなのではないかと考える。

### 2. 研究方法

【調査対象】中学生、高校生、教職課程を履修している大学生、現役の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の学校教師、大学教員、子供を持つ親、社会人に行った。222 人に行った。

【調査期間】2017 年 11 月 1 日から 11 月 12 日

【調査方法】LINE、メール、など SNS を用いたアンケート調査

- ・15 項目の選択方式による質問
- ・1 項目の自由記述回答

### 3. 主な結果と考察

本調査では、教育現場で LINE を活用することに対しては、半数近くが賛成であったことに対し、Twitter を活用することに対しては、1 割も賛成がいなかった。同じ SNS でありながら、2 つにこのような差異が生じたのは、「コミュニケーション」と「プライバシー」という点で差異が生じたからではないかと考えられる。「コミュニケーション」という点では LINE が、1 対 1 でのコミュニケーションが通常であることから、聞きたいことを聞くことが出来るなど、学校でのコミュニケーションの延長上に LINE が存在している。それに対し、Twitter は、対象としない相手にも、発言が伝わってしまう。コミュニケーションという認識はあまりなく、お互いの情報を得る場という認識が高いのではないかと考えられる。そのため、相手のことを知っても相談に繋がらないと考えられる。また「プライバシー」という点では、LINE は、基本的に相手のことを勝手に詮索することはできず、プライベートは守られる上で、コミュニケーションもとれ、LINE 自体を楽しむことができる。Twitter は、詮索や監視をされるイメージが強く、学校教師、生徒共にプライベートが無くなり、Twitter 自体が自由に楽しめなくなる。この 2 つの点が同じ SNS でも、賛否に大きく差異が生じた要因だと考えられる。

LINE を活用することに反対される、大きな要因としては、「不祥事」と「学校教師と生徒の距離感」が懸念されるからであった。「不祥事」という点では、学校教師による不祥事が後を絶たず、日々ニュースになっていることから、社会からの学校教師に対する信頼

が低下していることや、実際に LINE を用いた不祥事が起きていることが原因として考えられる。現場で活用していくには、学校教師と保護者、学校教師と生徒との信頼が構築されていることが最低限必要であることは確かである。「学校教師と生徒の距離感」という点では、LINE を活用することで学校教師と生徒との関係ではなく、友達の関係に近くなってしまうこと、恋愛に発展しやすいことが懸念されている。しかし距離感は、LINE を活用する以前の問題であると考えられる。LINE を活用する、活用しないに関係なく、生徒との距離感が普段の学校生活でも近い学校教員は、LINE での距離感も近い、距離感が普段の学校生活から遠い学校教員は LINE での距離感も遠い。LINE を行うことだけで距離感という関係性は、基本的に変わらないと考える。また、必ずしも学校教師が上、生徒が下という立場関係は、必要なのだろうか。礼儀作法は、必ず教えなければいけないが、礼儀作法を教えるのに学校教師が上である立場は関係ないと考える。学校教師という立場上、甘く見られることや、授業に支障がでる関係性ではあってもいけない。だが友達に近い関係でも一線を超えないよう守られる範囲ならば、良いのではないかと考える。生徒の相談に乗る、理解するといった点でも、距離感が近いことで相談がしやすい、変化に気づきやすいなどのメリットにもなると考える。

Twitter の活用ではデメリットが多く、Twitter 自体を楽しむことが難しくなることが懸念される。その中でも、いじめの早期発見や心情を気に掛ける手段として活用するならば、教師が Twitter を見守る場として活用することを、生徒に伝えたいうえで使用することならばメリットがあるのではないかと考えられる。

#### 4. 結論

不祥事を無くすことは限りなく不可能に近い。しかし、現在のように規則もなく、水面下で学校教師と生徒が個人的に連絡を取り合うよりは、徹底した規則を創り、LINE のメリットとなる点を有効活用することは、いじめや不登校生徒が増加傾向にある、現在の教育現場には必要である。Twitter は、コミュニケーション手段としてより、一つの感情表現の場として使用されているケースが多いことを考えると、プライバシーに介入してしまうため活用すべきではないと結論づける。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文を書くにあたり、協力していただいたすべての方に感謝したい。特に入院したことによって多大なご迷惑をおかけしたにも関わらず最後まで細かくご指導していただいた金子先生には、大変お世話になった。何を知りたいのかと考えたときに、私自身のこれからの人生において必要なことを研究したいと考え、本論文テーマに決めたことは、私自身にとって有意義であった。アンケート情報を収集することを始め、論文を書き進めるのは、大変楽しい時間であった。しかし、具体的な計画性を持って行えば良かったとも思う。今回の研究を春からの教員生活に少しでも反映させていきたい。